

地域の歴史と「合川歴史民俗資料室」がオープン

合川支所2階
旧議員控え室

文化を後世に伝える

▲歴史ファンなどにぎわったオープン初日



わらで編んだ手袋「テキヤシキ(俗称)」

合川支所に9月1日、農林業や生活で使われていた古民具や衣服、地域の歴史などを展示・紹介する「合川歴史民俗資料室」がオープン、開設記念式典が同支所で行われました。展示されているのは、藩政時代から明治・大正・昭和と続く、庶民の生活を伝える貴重な品々。その様子をご紹介します。

合併で空き部屋となった旧議員控え室(合川支所内)を有効活用

民具や衣類、古文書などおよそ250点を展示

資料室は合川文化財保護協会(福岡龍太郎会長)が資料を収集、協会の創立30周年を記念し、開設したもので、場所は合川支所2階の旧合川町役場議員控え室です。

室内は、合川地区の歴史を年表や研究書、古文書・古地図などで紹介するコーナーのほか、民具や衣類が「衣の文化」「道具の文化」「わらの文化」と分類して設けられ、過去から現在に到る地域の歴史と文化を概観できるように構成されています。

この日の式典では、福岡会長が、「当協会発足以来の悲願だった資料室が開設の運びとなり、感無量。これも、貴重な資料を提供いただいた市民の皆さんや、空き部屋の提供を快諾いただいた市及び支所当局の好意のおかげ。資料室は展示品数などに不足感もあるが、少しずつ改善し、地域の人たちとともに学べる資料館へと作り上げてまいります。」などとあいさつしました。

展示されている道具類は、「さおばかり(計量器)」や「ごこく(五徳)」「ろりや火ばちの 中におき、釜や鉄びんをのせる道具」、「味噌べら(味噌を作るときかきまぜる道具)」、など昔の生活で使われていた道具類のほか、農作業で着た衣服、猿倉人形芝居で使われる人形の首や衣装などおよそ250点あまり。

また、特別企画「藁(わら)の文化」コーナーでは、わらで編んだ草履(俗称:ジヨリ)や踏み俵(同フミダラ)、手袋(同テキヤシキ)、ご飯の保温器(同ママエチコ)など、昔は多くの農家で作られていたものの、現在では作る技術がすでに失われたか、また失われつつある貴重な生活用具が展示され、訪れた人の目を引いていました。

資料室の観覧は無料ですが、事前のお申し込みが必要です(団体のみ)。観覧ご希望の方は、次までご連絡ください。

■お問合せ先
合川公民館内、歴史民俗資料室担当まで(☎782114)



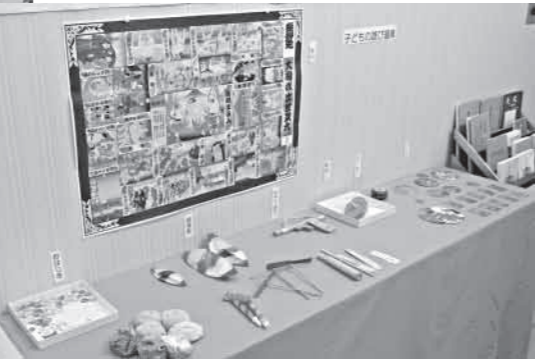
▲展示を説明する合川文化財保護協会の福岡会長



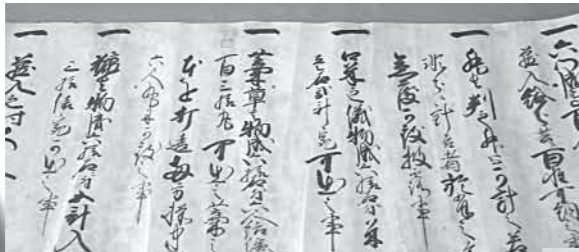
▲【藁(わら)の文化】
農業や生活様式の変化とともに消えつつあるさまざまな藁製品。



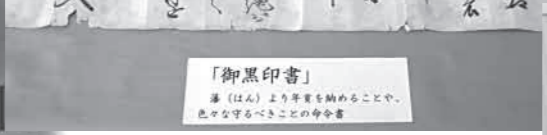
▼【昔の子どもの遊び道具】
すごろく、ぱっち(めんこ)、お手玉、紙風船など懐かしい子どもの遊び道具



▲【猿倉人形芝居で使われる人形の首】
猿倉人形芝居の演目「貫鉄和尚と娘」「女山賊・鬼神のお松」の演目に登場する人形を展示



▲【御黒印書(ごくくいんがき)】
藩からの、年貢を納めることや生活を質素にするべきことなどの命令書



▲【カラカラポッポ】
山の神へ育林を祈るために裏山の木の枝に掛けて拝む小正月行事の飾り



▲【道具の文化】
つるべ、ごこく、味噌べらなど、数十年前まで使われていたさまざまな古い道具類を、説明書きをつけて展示しています



▲【衣の文化】
製作に様々な技術が用いられた野良着など昔の衣類を展示。「この手作業が、暮らしを潤し、どれほど人々の心を温めてきたことか、ぬくもりのある表現が生まれたことか」と紹介している